

上杉文華館 目録
2022年4月27日（水）～5月24日（火）
関東管領上杉氏②～上野守護

資料名	員数	法量 (cm)	時代	作者	所蔵
複製 上杉本 <small>うえすぎほん らくちゅうらくがいずびょうぶ</small> 洛中洛外図屏風	六曲一双	各178. 1×383. 2	原本	室町～桃山 (16世紀)	狩野永徳 上杉博物館
国宝 上杉家文書 足利直義書状 <small>あしかがただよししよじょう</small>	一通	3 3.4×4 8.0・4 9.2	(建武4年・1337)	5月19日	上杉博物館 文690
国宝 上杉家文書 足利直義御教書 <small>あしかがただよし みぎょうしょ</small>	一通	3 2.4×5 1.0	建武4年 (1337)	9月3日	上杉博物館 文691
国宝 上杉家文書 高師直奉書 <small>こうのもろなお ほうしよ</small>	一通	3 4.0×5 4.4	建武4年 (1337)	11月2日	上杉博物館 文880

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り広げました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏の息子義詮・基氏、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第2回目は、「上野守護」をテーマとして関連文書を紹介します。上野国は室町幕府開設以来、10年余りの一時期を除き、謙信が継承した山内上杉氏が守護を務め、その権力基盤となり、戦国時代においても拠点となった重要な地域でした。謙信もその支配にこだわりをみせていました。14世紀半ば、南北朝時代初期、山内上杉氏の祖と位置付けられる上杉憲顕の上野守護としての役割、その基盤、そして成果を中心に紹介していきます。